

～日本脳炎患者の発生について～

- 県内で今年初めての日本脳炎の患者が確認されました。
- 日本脳炎は、蚊（コガタアカイエカ）が媒介するウイルスによっておこる感染症です。蚊は気温が15～32℃で活動するとされており、少なくとも10月頃までは蚊に刺されないようにするなどの感染予防対策が必要です。なお、ヒトからヒトへの感染はありません。
- 県では、9月4日に、日本脳炎に注意が必要な基準に達したため日本脳炎注意報を発令しています。引き続き注意しましょう。

1 患者の概要

- (1) 患者：男性（70歳代）、上天草市在住
- (2) 職業：無職
- (3) 症状：発熱、意識障害、けいれん等
- (4) 経過：
 - 8月15日～16日：頭痛、発熱、下肢脱力感出現。
 - 8月18日：A医療機関を受診し、入院となる。
 - 8月22日：呼吸状態悪化し、気管内挿管、人工呼吸器管理となる。
 - 8月30日：B医療機関へ転院。
 - 9月12日：検査の結果、日本脳炎と診断。

2 日本脳炎の患者数（今回の事例を含む）

R6.9.13 現在

年	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
熊本県	1	0	0	0	0	0	0	0	3	2	1
全国	2	2	11	3	0	9	5	3	5	6	3

※死亡例については、記録が残っているH18以降で、R4に1例発生。

（裏面あり）

参考

■ 日本脳炎について

日本脳炎は、蚊（コガタアカイエカ）が媒介するウイルスによっておこる感染症で、日本では、夏から秋にかけて患者が発生します。蚊は気温が15～32℃で活動するとされており、少なくとも10月頃までは注意が必要です。

感染経路：日本脳炎に感染した豚を蚊が吸血し、その蚊に刺されることにより感染する。

潜伏期：約6日～16日

症状：ウイルスに感染しても多くは不顕性感染（何も症状が出ない）だが、推定で100～1,000人に1人が発病する。

40℃以上の高熱、けいれん発作、昏睡状態といった症状が1週間くらい続く。

■ 感染を防ぐためには

- 日本脳炎の媒介蚊（コガタアカイエカ）に刺されないように心がけること。
 - ・蚊の多い場所においては、長袖、長ズボンを着用し虫除け剤を使用して下さい。
 - ・家庭周りの小さな水たまり（植木鉢の皿、古タイヤ、竹の切り株など）をなくし、蚊の発生源を減らすようにして下さい。
- 休養、栄養、睡眠を十分にとり過労を避け、体力の保持に努めること。
- 日本脳炎ワクチンを接種すること。

標準的な接種年齢

1 期初回：3歳のときに2回（6～28日の間隔をおく）

1 期追加：4歳のときに1回（1 期初回接種終了後、概ね1年の間隔をおく）

2 期接種：9歳のときに1回

※詳しくは、お住まいの市町村へお尋ね下さい。

■ 日本脳炎注意報について

熊本県では、日本脳炎の流行を予測するため、例年6月から9月にかけて、ブタ（県内産肥育ブタ）の血清中の日本脳炎ウイルス抗体検査を行っています。

8月19日に採取したブタの検体（血液）を県保健環境科学研究所で検査した結果、日本脳炎に注意が必要な基準に達しましたので、9月4日に、日本脳炎注意報を発令し、県民の皆様に日本脳炎の感染予防等について注意を呼びかけています。

<参考>

年	注意報発令日
令和4年	8月 4日
令和5年	7月27日
令和6年	9月 4日

（お問い合わせ先）

健康危機管理課 感染症対策班

担当 嶋田、西島

電話 096-333-2240（直通）（内線 33154）